

# 平成 30 年度 第 7 回意見交換会実施記録

## 1. 実施結果

- ・開催日時 平成 31 年 2 月 19 日 (火) 19:00~20:30
- ・会場 ラ・ホール富士 5 階研修室
- ・概要 3R 協働活動ボランティア登録制度について (その 2)
- ・出席者 市民 15 名  
事業者 4 名 (2 社)、富士市職員 3 名、進行 1 名 計 23 人
- ・進行 坂本竜児 (NPO 法人エコデザイン市民社会フォーラム スタッフ)

## 2. 内容

### (1) あいさつ

- ・12月にボランティア登録制度の説明を行った。本日も同じ議題であるが、1月19日に豊田市環境学習施設 eco-T (エコット) を見学した後であるため、具体的なイメージを持って意見交換したい。

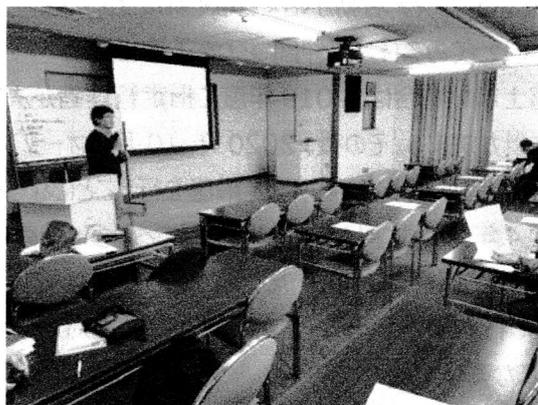
### (2) 趣旨説明

- ・そもそもエコットの活動はどのようなものか、改めてお伝えして、富士市らしいボランティア登録制度について考えたい。
- ・来年度、オープンまでの大きな考え方、概要について説明を行う。次年度、切れ間がないように4月に意見交換会を開催したいと思っている。

### (3) 3R 協働活動ボランティア登録制度について

#### [講義]

- ・エコットは、「気づきから行動へ」を合言葉に市民がエコライフを発信していく環境学習施設。4階建ての建物、市の中心部から8km南の立地。
- ・愛称は公募し公開審査を経て参加者全員で決めた。公募する際にはイベントのブースで集めたり、広報や学校を通じて小学生から集めたりした。
- ・生活を軸にした環境学習で参加体験を軸に市民が作り上げるインタープリテーション方式を採用している。低炭素、循環型が事業領域で、自然共生については自然観察の森が担っている。
- ・施設の特徴は、目的を持って来る施設、小学4年生が第一の顧客、サークルで使ってもらえる部屋がある、ごみ処理施設や活動する市民は魅力ある展示、市民が市民に伝えること。
- ・行政からの委託を受けてNPOが運営し、市民が活動している。登録しているボランティアは100人近く。



趣旨説明、ボランティア登録制度について

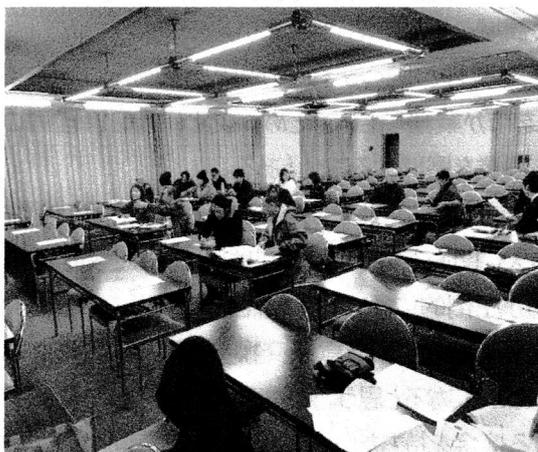
#### 【これまでの流れ】

- ・2018/12/19 第6回意見交換  
ボランティア登録制度の設計
- ・2019/1/19 先進環境学習施設見学会  
とよたエコフルタウン  
豊田市環境学習施設eco-T (エコット) 見学

#### 【今日の内容】

- ・エコットのインタープリターの活動
- ・第6回意見交換会、環境学習施設見学会のアンケートから「富士市らしい」活動を考える
- ・少しだけ来年度 (オープンまでの) 活動について

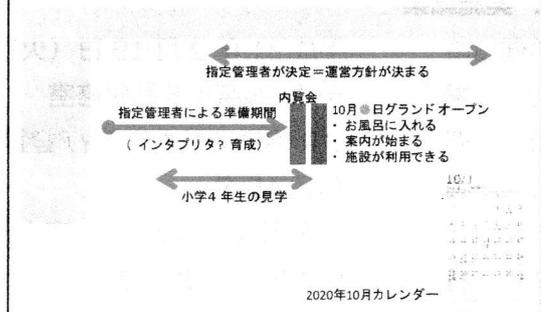
### 第 6 回からの経緯と今回の趣旨



講義を聞いた後のペアトーク

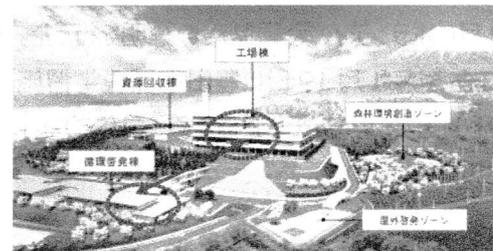
- ・インタープリターは、来館者の案内が中心。グリーンセンターの見学案内や展示学習プログラムの体験を実施し、1日4時間、2シフト制で1シフト2名で対応している。ほかにも講座の講師やお手伝い、展示の更新、自主グループでの活動などがある。シフトの活動は交通費を一律で支給している。
- ・1期生の講座のチラシには「インタープリター」という言葉を使っていない。新しい施設の展示を解説（説明）するボランティアの講座というネーミングにした。施設はまだ完成していない中で8回連続の講座を開催した。長いと感じるかもしれないが、ボランティア活動が始まればそれ以上の活動を行うし、考えてやってみる体験と仲間づくりを丁寧にした。
- ・富士市の場合、2019年度に指定管理者が決まり、運営方針が決まる。その後、2020年10月にオープンするため、その期間にボランティア育成講座を行うことになると思う。小学4年生の見学は6月から9月ごろが多いため、2020年中の見学は行われないうら。オープン後は地区や市民団体、行政の視察等が見学が多いのでその対応に追われることになると思う。
- ・第6回意見交換会のアンケートの要約、エコットを見学した感想を紹介（内容は配布資料参照）。
- ・ボランティア活動4つの原則など、ボランティアとしての原則のうらに、施設のボランティア活動があることを活動の手引きなどに定めてきちんと説明している。
- ・富士市の場合のボランティアは、循環啓発棟と工場棟の案内が中心。説明口調ではなくインタープリテーション方式で案内してほしい。いきなりすべての説明はできないので、得意なことからはじめて少しずつできることを増やしていき、出前授業やイベントに出展して施設や環境のことをPRしてほしい。当面は、施設利用者を増やすことと3R協働活動の啓発の間の領域の事業を増やすとよい。
- ・活動要件とボランティア育成講座を例示したが、最低限のことを市が業務項目にまとめることと、指定管理者の創意工夫で事業を展開することとある。
- ・駅前で「エコに取り組みましょう」と声を上げて誰も振り向いてくれない。ステージに応じた働きかけ方が必要。無関心の人に関心を持ってもらうにはどうするか、関心を持った人が自身の行動に移すためにどのような促しが必要か。無関心層が圧倒的に多い。大きな目標が同じであるなら多少意見が違ってもお互いを尊重して取り組んでほしい。
- ・来年度は引き続き意見交換会を開催、名称は見直したいと思う。愛称の公募は議会答弁でも検討するとあったので、行うことになると思う。勉強会やオープンした後に常設プログラムになりうるような体験会、学んだことを環境フェアで披露する機会を持ちたい。また、これまで年間計画が作れずに広報誌に掲載することが難しかったがある程度の計画にのっとり広報誌に掲載して人を募集したり環境フェア等のイベントで啓発したりと周知活動を行いたい。

## 富士市の場合（イメージ）



## オープンまでのスケジュールと人材育成

## 改めて富士市のボランティアの活動範囲



環境学習施設の受付（申込は事務員）、展示スペース案内、施設利用対応、工場棟への見学（説明と安全管理）、先々は小学校での出前授業、講師活動、地域イベント 出展

## ボランティアの活動範囲（想定）

## 2019年度の取り組みイメージ

施設のオープンは2020年10月、4月からは指定管理者がオープンに向けた準備を進めます。来年度の取り組みは以下のことを考えています。

- ① 意見交換会（名称見直し）の開催
- ② 愛称の公募ならびに選考
- ③ 勉強会、ボランティア体験会
- ④ 周知活動

## 2019年度の事業イメージ

#### 〔意見交換〕

- ・質疑の時間を設けたが、意見や質問がなかったため隣の人と感想を共有する時間（ペアトーク）を設けた。
- ・1組ずつどんな話をしたかをインタビューした。
- ・ボランティアにクリーンセンターと施設の案内の両方を期待するのはレベルが高すぎないか、屋外の自然の部分も活用してほしいといった意見があった。
- ・アドバイザーから以下のコメントがあった。
  - クリーンセンターの案内は、だれでもできるようになる。育成講座はグループで1か所説明するところが落としどころ。試行錯誤してやってもらい、お互いにほめたり改善点を伝えあったりして自信を持ってもらう。終了後に研修を行い、案内テキストに基づいて練習をする。また、得意不得意は分担し合っチームで案内するとよい。
  - 屋外については施設のボランティアが案内するより自然観察の得意な方や屋外の安全を見守る方を設置したほうがよいと思う。
  - 指定管理者の運営方針にもよるが博物館の友の会のような組織づくりなども一つの手だと思う。

#### （４）情報交換

- ・富士市役所：平面図を配布した。配置は確定している。最初の意見交換会の時からお風呂が若干変わっている。クリーンセンターの工事の進捗をニュースレターにしている。QRコードをスマホで読み取ると工事現場のドローンの映像が流れる。ぜひ、ご覧ください。
- ・川重 JV：運営活動ワーキンググループで、プログラムで使う備品を市民の意見を踏まえて検討している。大まかな備品は見えてきた。3月に確定して来年度調達する。4月以降も運営活動ワーキンググループは継続したい。
- ・クリーン工房：現在、指定管理者優先交渉権者として参加しているが、今後は指定管理者となれるように事業計画等を作成する。提案書の基礎となるような意見を4月以降に求めたい。
- ・みんなの会準備会事務局：川重 JV にみんなの会の取り組みを掲載してもらえらホームページを作成してもらった。また掲載方法を熟読してなくて掲載できていないが今後進めていく。準備事務局で今後こんなことを話し合っていくというのを出し合った。2月13日にキラーコンテンツのアイデアを出し合った。いろんな意見があり、自由に話し合えることは大切だと思う。意見交換会でなかなか意見を言えなくてもみんなの会で意見を気軽に出してほしい。

#### （５）その他

- ・（平面図を見て）最初ごろの意見交換会でお風呂のスリッパは不要と提案した。その後どうなっているか。また食事のスペースは土足で入れるのか。「こんなつもりじゃなかった」とならないように、決まったところは説明してほしい。
  - スリッパは不要か確認。軽食は靴を脱いで入る。

以上